

未来への挑戦 地域創成への戦略づくり

南あわじ市長 中田 勝久



新年あけましておめでとうございます。希望に満ちた新春を健やかに迎えたいと心よりお慶び申し上げます。日頃は、市政運営に對しまして深いご理解と協力を賜り、衷心より厚くお礼申し上げます。昨年、東日本大震災や風水害の被害の大きさに驚き、涙する光景を目の当たりにして、自然災害の惨さを改めて思い知らされた年でありました。

東南海・南海地震や台風などの大災害に備えなければなりません。逃げる、助け合う、準備することが重要ですので、是非とも家族、隣人、地域が繋がって強い絆で結ばれたまちづくりにご尽力いただきますようお願いいたします。

懸案であります低地対策の解決に向けた取り組みとしての「三原川水系河川整備計画」を着実に進めております。内水対策の入貫川排水機場改築工事は平成25年度の完成を目指し、また河川の流下能力を向上させる外水対策では大日川の改修事業にも県とともに取り組み早期工事着手に向けて臨んでおります。

合併直後からケーブルテレビ整備、小中学校耐震化100%、ほ場整備、防災対策、少子対策、高齢者への施策、産業振興策等を進めてまいりました。

大型事業を展開する一方、行財政改革にも積極的に取り組み、合併時における一般会計451億円もの地方債残高を74億円減らし、平成23年度末には377億円となり、実質公債費比率も20・6%から16%台に減少する見込みです。

大学学部設置につきまして、各方面の方々と市内20の主要団体で構成する大学誘致推進協議会委員の皆様からのご意見を賜り、積極的に英断させていただきまして、井戸知事に力を入れていただいております「あわじ環境未来島構想」も、「農と食の持続」「暮らしの持続」「エネルギーの持続」を目標に本格的に始動します。

主要産業は、高齢化、後継者不足、離農、特産品の価格低迷、所得の減退などと合わせて、環太平洋経済連携協定（TPP）交渉に見られる国際化の波など、様々な課題はありますが、大産地南あわじの農漁業の減退を食い止め、地域創成のため真剣に取り組んでまいります。

自らの未来は自らの力で創り出す。批判評論ばかりするのではなく自ら考え自ら行動することこそが激動の時代に生き抜く術であると考えています。

今年は、優秀な先生方の知財・ネットワークをお借りし、市民の皆様のお力を結集しながら、「未来への挑戦」として地域創成への戦略づくりを志操堅固に取り組んでまいります。

* 志操堅固…志をかたく守って変えないこと

市民の皆さまに開かれた議会をめざして

南あわじ市議会議長 楠 和廣



市民の皆さま、新年あけましておめでとうございます。

ご壮健で希望に満ちた新年をお迎えのことと心よりお慶び申し上げます。南あわじ市議会を代表して新年のごあいさつを申し上げます。

新しい年を迎え、市民の皆さまからより信頼され、負託に応えられるよう誠心誠意努力する決意を新たにしております。

さて、南あわじ市の当面の課題として、市立学校、市立幼稚園及び教育施設に係る「南あわじ市教育施設再編基本計画」、市民交流センター設置も含め大規模プロジェクトである新庁舎の建設、志知高校跡地に計画されており吉備国際大学の学部開学などの課題があります。

また、昨年、東日本大震災が発生、近い将来高い確率で発生すると言われている南あわじ市・南海地震に伴う津波の被害想定の見直し等に伴う防災・減災に向けた取り組み、人口の減少に伴う少子高齢化の対策、円高・デフレ等厳しさを増す経済環境下における地域経済の活性化に向けた取り組み、TPPの影響が見込まれる地場産業の対策、自治体経営を持続可能にするための行財政改革の推進など様々な課題解決に向けた取り組みが急務となっております。

地方分権時代における住民自治を

確立するうえで、二元代表制の一翼を担う議事機関である議会の役割として、市民の皆さまの多様なご意見をくみあげ、自治体の意思決定のための政策形成機能と執行機関に対する監視機能などの充実強化が求められております。昨年は、市民の皆さまにより身近で、開かれた議会をめざして、7月からインターネットによる一般質問の録画配信をスタートさせております。また、各常任委員会において自由闊達な議論をするための委員間討議の実施や議員それぞれの議案等に対する賛否について議会広報紙で公表するなど、試行の段階ではありますが、議会改革に取り組んでおります。今年度は、議会の最高規範とも言われている「議会基本条例」制定に向けて議論を進めてまいります。

どうか、今年もより一層のご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げますとともに、市民の皆さまのご健勝ご多幸をお祈り申し上げ、新年のごあいさつとさせていただきます。

アジア国際子ども映画祭 in 南あわじ

本選大会で各賞決定！



▲映画祭のテーマソングである「Message」をゲストと受賞者で歌いました

式と上映が行われ、各賞の発表が伝えられることに会場からは大きな歓声があがりました。

今回初めて南あわじ市で開催された本選大会では、「学ぶこと・教育」を課題に、各国の子どもたちの感性が光る映像作品が集まり、最優秀賞の杉良太郎特別賞には、モンゴルのスフバートル・アル

タンエルデネさんの「勉強したいけれど」が選ばれました。



▲①杉良太郎賞を受賞したスフバートル・アルタンエルデネさん ②文部科学大臣賞を受賞した天野さん(左)と榎本さん(右)

国の教育制度が変わり就学年齢が引き下げられたことに戸惑う子どもの様子をコミカルに映像作品にしたものです。

国内では、上位4賞の一つ文部科学大臣賞に天野杏音さん（榎列小）と榎本響さん（八木小）の「子ども義太夫教室」が選ばれました。また、佐賀清和高校（佐賀県）の2人が優秀賞、法務省関東医療少年院（東京都）の作品も入賞に選ばれ、中田瑠奈さん（榎列小）の「我が家のお正月までの長い一日」が奨励賞に選ばれました。

各国の受賞作品は、人の道を外れた事をすればどうなるかを考えさせる作品や、息子の手紙を読みたくて文字を学び始める老人を描いた作品、

学ぶことに迷わないで挑戦することの大切さを訴えた作品、HIVの社会差別や、教育を受けたくても受けられない状況を訴えた作品など、環境や文化の違う国々の子どものたちが、それぞれの目と心で感じたことや想いを、特色ある表現で伝えた感動的な作品がそろって受賞しました。

米粉たこ焼き命名

多幸米（たこべえ焼）



▲米粉たこ焼きに多幸米と名付けた武部 勤衆院議員(左)と、作った森 鈴夫さん

アジア国際子ども映画祭の野外ブースで、南あわじ産の米粉を使用した「米粉たこ焼き」が販売されました。

映画祭に来賓でお越しの、武部 勤衆院議員が、ご夫婦でこのたこ焼きを試食されて「多幸米（たこべえ焼）」と命名されました。

このたこ焼きは、これまで米粉のピンス焼きを商品化した市や食品会社などで作る「米粉利用推進協議会」が、米の消費拡大と南あわじの食



▲米粉たこ焼き「多幸米焼」を食べた上田有紗さん(市)は「優しく舌を包みこみ、お米の甘みが出て美味しいです。」と話していた